

かじいちごのべと病（新称・国内新発生）

平成 26 年 7 月、石狩地方の露地栽培のかじいちご（観賞用きいちご）に、葉が退緑する症状が発生した。本症状は翌年にも大発生が見られた。病徴は、小葉全面に散在する輪郭不明瞭の小型退緑病斑と、伸展した大型退緑病斑があった。病斑部の葉裏には灰白色の糸状菌がまれに見られ、検鏡すると分生子柄および分生子が観察された。分生子柄は長さ $155\sim 475\times 5\sim 13\mu\text{m}$ で 3～6 に分枝、分生子は大きさが $15.5\times 25.8\sim 11.6\times 19.4\mu\text{m}$ （平均 $20.4\times 16.3\mu\text{m}$ ）、卵状で縦横比は 1.25、透明もしくは褐色で、直接発芽した。以上の形態と種特異的 PCR 検定により、本菌を *Peronospora sparsa* Berk. と同定した。分離菌の接種で原病徴が再現された。本菌によるキイチゴ属植物の病害は本邦未報告であるため、病名をカジイチゴべと病とすることを提案した。

（中央農試・十勝農試・ホクレン）



かじいちごのべと病（ホクレン 大上氏 原図）